

# 令和5年白老町議会総務文教常任委員会協議会会議録

令和5年4月18日（火曜日）

開 会 午前11時47分

閉 会 午後 0時00分

---

## ○会議に付した事件

協議事項

1. 白老町地域コミュニティ基本方針(案)について
  2. その他
- 

## ○出席委員（6名）

委員長 吉 谷 一 孝 君

副委員長 佐 藤 雄 大 君

委 員 大 淵 紀 夫 君

委 員 小 西 秀 延 君

委 員 氏 家 裕 治 君

委 員 前 田 博 之 君

---

## ○欠席委員（なし）

---

## ○説明のため出席した者の職氏名

政策推進課長 富 川 英 孝 君

政策推進課主幹 喜 尾 盛 頭 君

政策推進課主任 溝 口 泰 子 君

---

## ○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長 本 間 力 君

主 幹 小山内 恵 君

---

## ◎開会の宣告

○委員長（吉谷一孝君） ただいまより、総務文教常任委員会協議会を開会いたします。

（午前11時47分）

---

○委員長（吉谷一孝君） 協議事項は、白老町地域コミュニティ基本指針(案)についてです。説明員より説明を求めます。

富川政策推進課長。

○政策推進課長（富川英孝君） 本日は、白老町地域コミュニティ基本指針の試案がまとまりましたので説明させていただきます。本町の課題といたしまして人口減少、高齢化という中で、地域コミュニティの今後の在り方をどのようにしていこうかと、昨年の6月からこれまで4回策定委員会を開催しまして、現在パブリックコメントを行っている状況でございます。

具現化していくことは難しいかと思うのですが、やはり住民の皆さんが同じ方向、考え方、協力するということを少しでも働きかけができるような考え方を持って指針をまとめてまいりましたので、担当より説明をさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

○委員長（吉谷一孝君） 喜尾政策推進課主幹。

○政策推進課主幹（喜尾盛頭君） 政策推進課の喜尾です。私からは概要版を用いて説明いたします。まず、基本指針とは一体何なのかということを中心に端的に説明させていただきます。

こちらの策定の趣旨につきましては、今後少子高齢化、人口減少が間違いなく進行していく中で、町内会など地域コミュニティが将来の人口規模に備えて何を指して、どのようなことを行っていくことで、持続可能な活動を行っていけるのか。その方向性を示す道しるべとして作成したものでございます。それぞれの地域コミュニティの現状、状況が違うことから、いつまでにどのようなことをどれくらい行うという計画ではなくて、それぞれの歩み、速度で進められるように、このような目指すべき姿に近づいていこう、目指していこうという、少し抽象的な内容になっているということをお含みおきいただければと思います。

それでは、概要版に沿って説明させていただきます。まず、概要版の表紙の下にあるとおり、地域コミュニティとは何を指しているのかということでございます。ここでは、町内会や地区町内会連合会などの地縁による団体のほかに、地域に関わるさまざまな活動を自主的・主体的に展開している町民活動団体も総じて地域コミュニティと定義してございます。

この作成にあたって、先ほど人口減少というお話をさせていただきました。裏側4に、本編の抜粋になりますが、国立社会保障・人口問題研究所による推計値、2045年の人口でございます。まず、7,770人。この数値は1941年、白老村時代の人口とほぼ同じになってくるとい、白老町としては経験がない人口になると考えられています。下の表は高齢化率です。2045年で59.4%になるということですが、そこまでの行き方が各地区によって違います。現在も石山地区については高齢化率が高い地域となっておりますが、現在の社台地区は高齢化率が低いです。しかし、2045年になると石山地区に次ぐ高齢化率になるということで、急速な変化

が見られることもありまして、各地区によって少し歩み方が違うと考えられます。

この状況を基本としまして、開いていただきますと概要の説明になります。まず、1、指針策定の背景ということで、大きくは人口減少、少子高齢化でございます。その中でさまざまな課題が出てくるということで、地域コミュニティの役割は重要です。ただ、地域課題が段々複雑化していく中で、皆さんで何を目標として歩いていくかが大事になっていくということ。

2番目の指針策定の目的としましては、この重要になってくる地域コミュニティの進むべき方向性の道しるべとして策定したい。

3、この指針の推進期間ですが、短期ではなくて、想定している人口が20年後ということもありますので、20年、30年後を目指してやっていこうということなのです。

5、地域コミュニティが進むべき方向性、何を目指していくのかです。こちらは白老町の最高規範であります、白老町自治基本条例にもあるとおり「しあわせを感じるまち」の実現を目指していこうということで、地域コミュニティの目指す姿は、多様な主体が参画する地域コミュニティ。情報を共有し、互いに助け合える地域コミュニティ。誰もが地域課題の解決に取り組む地域コミュニティを目指していきましょうという3点です。次に、地域コミュニティ組織の在り方です。持続的な活動を可能とする地域コミュニティ組織。さまざまな連携により、課題解決を行う地域コミュニティ組織。地域コミュニティを支える中間支援組織の充実ということで、コミュニティの姿、組織の在り方を示しています。

そこで、地域コミュニティまた中間支援組織、行政が理念に向かってどのように取り組んでいくのが6、7、8番です。6番は、地域コミュニティが取り組むものということで、1として、運営体制の確保、状況に応じた運営や活動内容の見直しを行っていきましょう。2として、課題をしっかりと把握して、情報の発信と共有をしていきましょう。3として、顔の見える共助活動の充実をしていきましょう。4として、多様な主体との連携。単体ではなかなか難しい問題も連携することで解決することができるでしょうということで、この4点としています。

7番の中間支援組織ですが、白老町町民まちづくり活動センターを中間支援組織と位置づけて考えています。取り組みとして、1番目、積極的な情報収集と発信を行っていきましょう。2番目、相談・コーディネート機能の拡充ということで、多様な主体を結びつける活動をしていきましょう。3番目、組織力強化・ひとづくり機会の充実ということで、地域コミュニティが持続可能な取り組みができるような活動をしていきましょう。この3点としています。

最後に8番、行政が取り組むものということで、まずは、地域コミュニティに対する支援、さまざまな支援を行っていきましょう。2番目に、情報共有、公開の充実を図ることで協働のまちづくりを推進していきましょう。3番目として、行政としてしっかりと中間組織機能の充実に向けて支援を行っていきましょう。4番目として、職員理解と参加の促進ということで、しっかりと自治基本条例またこの指針を職員が理解した中で参加の促進を図っていきましょうということ。この4点を基本理念の達成に向けてやっていきましょうとまとめたものです。

こちらは抜粋となっておりますので、本編ではもう少し詳しく書いている部分がありますが、大きくは人口減少を見据えた中で地域コミュニティをしっかりと持続可能に維持していくため

に、それぞれがきちんと主体性を持って取り組んでいきたいと思いますという内容となっています。

今パブリックコメントの期間となっています。また、各町内会長からも意見を募集している段階です。今のところ1件ご意見をいただいておりますが、本日皆様にもご意見等をいただいて、よりよいものにできればと考えています。足早になりましたが、私からは以上です。

○委員長（吉谷一孝君） ただいま説明員からの説明が終了しました。この件について、何かご意見、ご質問があります方はどうぞ。

氏家委員。

○委員（氏家裕治君） この概要版に沿って中身を見せていただきましたけれども、中身のあるといふか、これからの地域、行政をつなぐ組織。そういった見える化みたいなかたちでまとめられていると思うのですが、実際問題今の地域にある町内会活動がどんどん縮小してきているというのは、これはもう見て分かるとおりです。先日私の町内会でも、元々6班あったものが3班になり、3班の中でも人材確保ができなくなってきたということで、今3班を2班に区域分けをして、やっと役員を選んで班構成を変えてやっていかなければいけない。これが5年、10年続くと1つの町内会としてやっていかなければいけないのではないかとこのころまで来ているのだけれども、ほかにももっともっと厳しいところがたくさんあると聞いています。ですから、そういった現状を踏まえながら、そこにどういった支援をしていくのかということを入念に入れてやっていただきたいと思うし、これは連合町内会が主体になってやらなければいけないことは分かっているのだけれど、連合町内会は結局何の権限も持たないでしょう。例えばこうしてくださいとかも言えない。ただ、皆さんで何とか協力できないかという話はあるけれども、行政がそこに絡んでいかないと解決できない問題がたくさんありますので、そこだけはよろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長（吉谷一孝君） 富川政策推進課長。

○政策推進課長（富川英孝君） 人口減少と高齢化と合わせて町内会活動の活発化というのはなかなか難しいと。3年ほどコロナということもあって、より顔を合わせる機会が減ってきたということも拍車をかける一因になっているのかと思ひます。我々の町内会でも、先ほど来ありました班の統合とか度々議題になります。そういった中では器をどんどん大きく広範化していかなくてはいけないとなりますけれども、やはり物理的な距離をいかにつなげていくかというところをしっかりと認識しながら、行政としてもまちづくり活動センターあるいは町内会連合会の皆さんと協力、相談しながら、皆さんが取り残されることのないように、地域がしっかりと少しでも活力を維持できるように取組を進めていきたいと考えています。

○委員長（吉谷一孝君） ほかがございますか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

---

### ◎閉会の宣告

○委員長（吉谷一孝君） 以上をもちまして総務文教常任委員会協議会を閉会いたします。

（午後 0時00分）